新採職員の１日（行政相談）

廣飯　美波
ひろいい　みなみ

（令和2年度採用）

　みなさんの日々の生活における身近な気づきや実感が、行政上の課題の解決・改善のための業務に生きてくるのが、当局の特徴だと思います。
　当局の業務に少しでも興味を持った方、お気軽に説明会等にお越しください！お待ちしています！

〈開催行事（一例）〉
・総務大臣表彰式
　→webを使用し、大臣表彰を受賞された委員の皆さんの表彰式を開催しました。

・行政相談パネル展
　→仙台メディアテークにて、行政相談委員の方とともに、
　　身近な困りごとに関する相談を受けつけや、行政相談のPR活動を実施しました。

・暮らしの復興無料相談会
　→宮城県気仙沼市で行政相談会を開催しました。
　　弁護士や司法書士の先生方、県や市の担当職員の方々にも参加いただき
　　住民の皆さんの身近な困りごとについての相談を受け付けました

8:30 出勤
メールチェック、1日のスケジュールの確認など

9:00 庁舎を出発
会場で必要な荷物を積み込み
現地に到着した後は、荷物を運び出し、会場の設営を開始！

9:30 課室員との打合せ
開催場所の担当者の方に挨拶した後、行事が行われる1日の流れや自分の担当する仕事について再確認
→会場の設営や使用する備品の準備（案内板やのぼり旗などを設置することも）、その場で初めて使用する機材もあったため、使い方について確認
→本省中継用に使用する機材の接続チェックをし、音声など細かい点を調整する作業を実施

11:00 行事（表彰式）の開催
表彰式では、総務省本省との連絡担当だったため、会場の様子や進捗状況について、随時、Skypeを使用して本省と連絡をとりました。

ビデオカメラを設置・撮影し、表彰式の様子を本省に向けて配信（途中で接続が切れてしまうアクシデントがありましたが、なんとかすぐに接続し直しました…汗）

受賞者のスピーチに使用するマイクの消毒やアシスタントを実施

12:00 昼食

14:00 行事終了
受賞者の方に記念品を贈呈、お祝いの言葉と挨拶をしながらお見送り

会場の片付け、備品の運搬や積込み作業

17:15 帰庁・帰宅
帰庁後、荷物を運び入れて片付けをし、終了後帰宅

Q & A

Q１　行事の準備で大変なことや心がけていることはありますか？

A　何もかもが初めての経験でしたので、まずは上司や周りの職員の方の動きを見ること、自分がやるべき仕事が何か確認するようにしていました。わからないことがほとんどなので、何をすれば良いか、どうしたら良いのかについて迷った場合は、その都度聞くようにしていました。
　また、昨年から続くコロナ禍は、誰にとっても初めての経験でしたので、どのような感染対策を講じて行事開催すればよいかといったノウハウがほとんどなく、手探りの状況でした。そうした点で、どうしたら良いかといった悩みや大変さを感じることはあったように思います。

Q２　行事の開催に関わるなかで、嬉しかったことや達成感を感じたことはありますか？

A　気仙沼市で暮らしの復興無料相談会を開催した際、相談を終えた方から「解決してほっとした」と言われたときは、この相談会を開催してよかったと感じました。
　この行事では、弁護士や司法書士の先生方、法務局や気仙沼市の職員の方などに参加していただいていたので、さまざまな分野の相談を受け付けていました。それぞれの相談者の方が不安に思っていること、解決してほしいと感じていることの幅は広く、中にはすぐには解決できないものもありましたが、少しでも良い方向に向かうよう、サポートができたのではないかと感じています。

Q3　周り職員のサポートはどのようなものでしたか？

A　先輩職員は経験豊富な方ばかりなので、わからないことを質問すれば、丁寧に教えていただけます。
　仕事を任せてもらえる場面は多いですが、決して任せっきりではなく、仕事の進捗状況の確認や進め方の相談、「こういう方法もあるよ」といったアドバイスもしていただけます。
　仕事をする際には、周りの職員の方からいつもサポートしていただいていたように感じています。

新採職員の１日（評価監視）

池田　拓
いけだ　たく

（令和2年度採用）

私の場合、一日の流れが定型的ではなく、デスクワークのみで終わる日もあれば、調査や行事等で一日中外出している日もあります。また、常時監視活動や調査等では日々学びがあり、新鮮な気持ちで毎日を過ごすことができます。
東北管区行政評価局は職員の皆さんと気軽に相談し合いながら業務を進めることのできる、とても風通しの良い職場です。やりがいと働きやすさが両立した当局をぜひ、選択肢の一つとして考えてみてください。

※　子育て支援に関する行政評価・監視
－産前・産後の支援を中心として－

→妊娠期から出産後にわたり支援を要する妊産婦に必要な支援を提供できる体制の整備を推進する観点から、都道府県や市町村等における産前・産後の支援の実施状況等を調査しました。

8:30　出勤

メールチェック、1日のスケジュールの確認など

9:00　常時監視

信号機の視覚障害者用押しボタンが点字ブロックから離れていて危険であるという新聞記事を見つけ、行政上の課題として局内に報告

10:00　調査準備

子育て支援に関する調査（※）の準備のため、室内で打合せ。

調査対象機関から事前に入手した資料を確認した結果、母子保健事業の実施に当たり課題を抱えていることが判明したため、ヒアリングにおいて重点を置いて質問することを提案

12:00　昼休み

12:00から１時間昼休み
庁舎内の食堂で日替わり定食を注文（この日はオムカレー）

13:00　行政機関への調査

昼休み終了後、調査先の行政機関まで移動し、担当者から子育て支援の実施状況等についてヒアリング。
地域の特性（産院の数、他市町村との連携状況等）に応じた困りごとや、現場で働く保健師の声（感染症対策に伴う業務量の増加等）を把握する。

16:00　調査結果の整理

帰局後、調査結果について要点を押さえながら整理。
必要に応じ、調査対象機関へ電話やメールで補足確認

17:15　終業

終業後は趣味の野球観戦

Ｑ＆Ａ

Ｑ１　調査準備で大変なことや心がけていることはありますか？

Ａ　調査対象機関の担当者は、実際に現場で働く「専門家」ですが、私たちは幅広い分野を扱う分、特定の分野に対しては「素人」であると言えます。このため、事前準備で正確な知識を付け、最近の情勢を理解して調査に臨むことが重要であると思っています。仕事の合間にはテーマに関連する書籍を読むなどして、実態の把握に努めています。

Ｑ２　調査に関わるなかで、嬉しかったことや達成感を感じたことはありますか？

Ａ　調査対象機関の担当者に調査の意図を説明した際、同じ問題意識を持っているとして、国の制度に対する意見を有り体に述べてくださったことが嬉しかったです。なかには「評価・監視」という言葉に警戒感をもたれる場合もありますが、客観性を担保しつつ、「一緒に課題を解決していく」という姿勢で臨むことにより有益な情報や意見を得られるということを学びました。

Q3　周り職員のサポートはどのようなものでしたか？

Ａ　ヒアリング中に私が質問に詰まるようなことがあれば、合間を縫うように質問をしてスムーズな進行をサポートしてくださいました。また、皆さんそれぞれが調査担当を複数もっているにも関わらず、私が作成した質問事項や調査結果の取りまとめ等についてじっくりと目を通してくださり、的確なアドバイスをしてくださいました。調査はチームで行うものだということを改めて実感しました。